

研究成果の公開

名古屋大学の各学部・研究科・研究所・センターなどでは、多分野の研究者が教育研究に携わっています。論文や著作として世界に発信されるたくさんの研究成果の一端が、博物館、野依物質科学研究館、赤崎記念研究館、図書館、博物館サテライトなどの常設展・特別展・企画展として、分かりやすく一般公開されています。特別展・企画展関連の講演会や様々な研究プロジェクトの報告会も頻繁に開催され、研究成果の社会還元が行われています。

14 博物館 (古川記念館)

本学の研究成果や所蔵標本を常設展・特別展・企画展で紹介。普及講演、博物館コンサート、野外観察を中心にした次世代教育、国際交流にも力を入れています。前庭には野依教授のノーベル賞記念碑があります。火-土 10-16 時オープン。



15 野依教授のノーベル賞研究

野依良治教授は、「キラル触媒による不斉合成研究」で 2001 年のノーベル化学賞を受賞しました (名古屋大学初の受賞)。物質科学研究館 2 階のケミストリーギャラリーには、野依教授の研究足跡と化学の歴史が展示されています。



16 ウィーヘルト地震計

80 年以上前にドイツで制作された貴重な地震計。2007 年 3 月に京都大学から名大博物館に寄贈され、環境総合館の玄関ロビーで展示中。同館 4 階の災害対策室は災害アーカイブを持ち、災害関連の展示や防災セミナーを開催しています。



17 赤崎教授の青色 LED 研究

赤崎勇教授は、窒化ガリウムの結晶化技術を開発して、世界で初めて高輝度青色発光ダイオード (青色 LED) を誕生させました。赤崎記念研究館には、青色 LED の研究内容とともに、LED を使ったディスプレイが展示されています。



アート・デザイン

東山キャンパスでは、野依記念研究交流館のマリオ・ベリーニとヴィコ・マジストレッティ、環境総合館、IB 電子情報館のフィリップ・スタルクやロン・アラッド、それに情報科学研究科棟のジャズパー・モリソンやジョージ・ネルソンなど、著名なデザイナーたちのテーブルやイスが多く使われています。古川記念館の脇田和の作品や、ここそこにあるアートを眺めては、そんなファニチャーで一息つくのも、キャンパスめぐりの楽しみ方のひとつでしょう。

18 ロン・アラッド 《ピッグ・イージー》

多元数理科学研究科棟 1 階ロビー。この椅子は、ステンレススチールを溶接して作られています。イスラエルに生まれ、ロンドンで活躍するデザイナー、アラッドが 1989 年にデザインし、少数に限定して制作された貴重なものです。



19 ロイ・リキテンシュタイン 《Peace through Chemistry》

野依記念物質科学研究館 2 階ノーベル賞展示室。リキテンシュタインは、アメリカを拠点に活躍するポップアートの作家です。このリトグラフ作品は、野依教授の受賞を記念して門下生らから贈られました。平日 10-16 時オープン。



20 教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」

全学教育棟本館南入口横に 2007 年 5 月開設。教養教育と連携し、視覚を通した複眼的な思考と総合的な知識の育成を目的に、現代美術やデザインの展示会などがおこなわれます。展示会等の開催時のみ平日 10-18 時オープン。



21 北川民次 《市場》

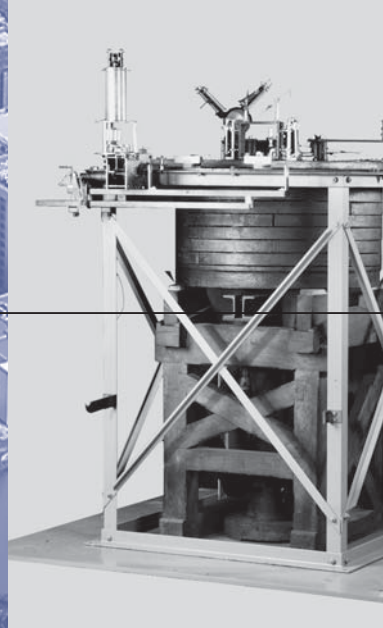
日本を代表する画家、北川民次はメキシコに長く滞在、シケイロスらの壁画運動の影響を受けました。帰国後は愛知県に居を構え、制作・教育に力をそそぎました。1989 年没。経済学部本館にあり、鑑賞には予約が必要です。

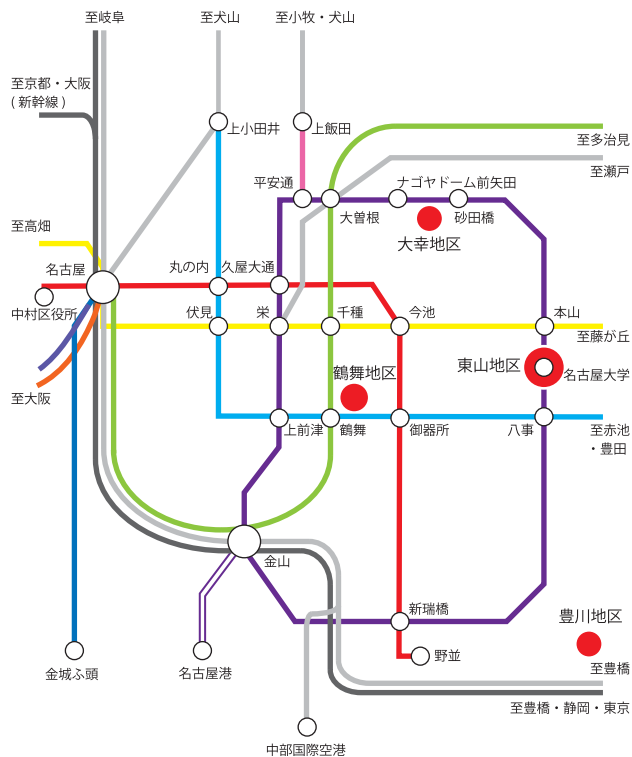


NAGOYA UNIVERSITY CAMPUS MUSEUM MAP

名古屋大学 キャンパス ミュージアムマップ

- Landscape & Architecture
- Natural History
- Research Exhibition
- Art & Design
- Historical Monuments





JR 東海道線	近鉄線	地下鉄名城線	
JR 中央線	地下鉄東山線	地下鉄名港線	
JR 関西線	地下鉄桜通線	地下鉄上飯田線	
名鉄線	地下鉄鶴舞線	あおなみ線	

東山キャンパス

地下鉄 名城線名古屋大学駅下車すぐ

鶴舞キャンパス

JR 中央線 鶴舞駅(名大病院口側)下車徒歩 3分

地下鉄 鶴舞線鶴舞駅下車徒歩 8分

大幸キャンパス

JR 中央線 大曽根駅(北口)下車徒歩 15分

地下鉄 名城線ナゴヤドーム前矢田下車徒歩 10分

または砂田橋下車徒歩 7分

豊川キャンパス

名鉄豊川線 諏訪町駅下車徒歩 25分

発行 名古屋大学 2008年2月

監修 キャンパスミュージアム小委員会・
全学展示スペース検討ワーキンググループ

デザイン 今和泉 拓 北野 拓哉(工学部学生)

ウェブ 林 桃子(情報科学研究科院生)

TEL 052(789)5767(名古屋大学博物館)

HP www.num.nagoya-u.ac.jp/

鶴舞・大幸・豊川 その他のキャンパス

名古屋大学には、東山キャンパスの他にも主要キャンパス等があり、それぞれ立地条件や沿革による特徴と見どころを持っています。また、さまざまな教育研究分野に応じた実験実習施設や観測所なども、南は鹿児島から北は北海道まで、全国に点在しています。ここでは、3つの主要キャンパスと、比較的近い東海地域にある実験実習施設などを紹介します。(見学などの際には、本学ホームページ等から連絡先をご確認の上、お問い合わせ下さい)

鶴舞キャンパス

1914年以来、東海地域の医学教育研究の拠点となっており、鶴の翼をイメージした病棟の外観が特徴的なキャンパスです。図書館の史料室には、東海地区や本学の医学史を知る上で貴重な資料が多数展示・保存されています。

大幸キャンパス

医学部保健学科と大幸医療センターが利用。最も古い校舎は戦前建てられた旧三菱重工業社屋を転用したものです。戦災を経てこの地区に唯一現存する産業遺構で、かつて昭和天皇の行幸を迎えた名残りが内装の一部に見られます。

豊川キャンパス

太陽地球環境研究所が巨大なアンテナによる太陽風の観測等に利用。緑が豊かな敷地内には、「東洋一の軍需工場」といわれた旧豊川海軍工廠の一部がほぼ原型のまま残っており、近代軍事遺跡としても注目されています。

その他

- ・理学研究科附属臨海実験所(三重県鳥羽市菅島町)
- ・生命工学研究科附属農場(愛知県愛知郡東郷町)
附属演習林(愛知県豊田市稲武町)
附属山地畜産実験実習施設(愛知県北設楽郡設楽町)

歴史的遺構

名古屋大学は、1939年に名古屋帝国大学として創設されました。本学の歴史には、前史にあたる医学校・病院などの歴史や新制大学発足時に包括された旧制の第八高等学校・名古屋高等商業学校・岡崎高等師範学校などの歴史が含まれます。このため、現在の東山・鶴舞・大幸・豊川の主要キャンパスだけでなく、名古屋市を中心とした愛知県内の名城・瑞穂・桜山・安城などの旧キャンパス跡地周辺には本学のあゆみを示す記念物などが残されています。

旧愛知病院正門

鶴舞キャンパスの名大病院の門は、1914年に竣工し1930年に改修された旧愛知病院正門が利用されています。当時のデザイン傾向を映す幾何学的なテラコッタ装飾が特徴で、2007年に有形文化財に登録されました。

愛知医学校・愛知病院記念碑

医学部前身の愛知医学校・愛知病院の堀川岸への新築移転130年を記念し、2007年に名古屋外科支援機構が同跡地に建立し本学に寄贈しました。記念碑には1880年頃に描かれた極彩色の手術絵図が転写されています。

第八高等学校(八高)正門

八高は1908年に創設された旧制高校で、1949年の新制大学発足時に本学に包括されました。赤煉瓦・花崗岩による紅白横縞模様の角柱など明治後期の様式の特徴を伝える正門は、博物館明治村の正門として利用されています。

渡邊龍聖名古屋高等商業学校(名高商)初代校長胸像

経済学部前身の名高商は1920年に創設され、新制大学発足時に本学に包括されました。渡邊は東京音楽学校・小樽高等商業学校の校長を歴任後、1921年に名高商初代校長に就任しました。胸像は経済学部中庭にあります。

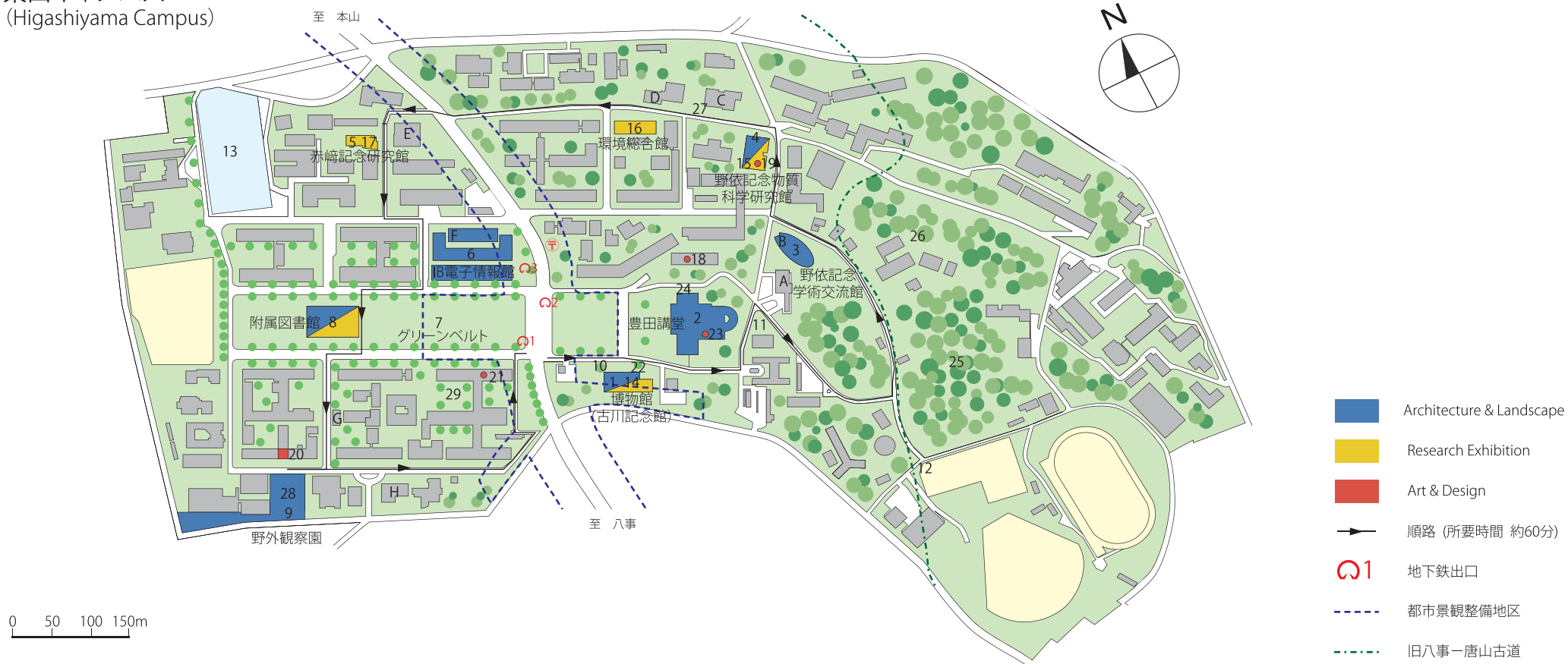


キャンパスミュージアム

緑豊かな東山キャンパスも名古屋帝国大学ができた頃の1940年に制作された東山キャンパスの模型(通称「田村模型」右写真)と比べると、森が大幅に減少しています。しかし、約2億年にわたるこの地域の自然誌要素はかなりよく残っていて、大学の大きな財産となっています。キャンパスに見られる多様な動物・植物・地層、古墳時代の窯跡(環境医学研究所付近)、八事ー唐山古道、野外観察園、緑のトンネルなどを自然誌要素ととらえ、これに博物館や図書館の展示、大学所蔵の美術品、記念碑・記念樹、豊田講堂などをリンクさせ、さらに雑木林の中に歩行者専用の思索の道(Muse Path)や彫刻広場なども設置して、東山キャンパス全体を「憩い」と「思索」と「交流」のスペースとするキャンパスミュージアムができつつあります。この構想は自然・芸術・標本などには、人の心を癒す効果があるという「ミュージセラピー」(Muse Therapy)の考えにそったユニークなもので、キャンパスを散策しながら、地域の自然誌、大学の歴史、名古屋大学の研究の一端にふれることができます。



東山キャンパス (Higashiyama Campus)



建築・ランドスケープ

- 1 古川記念館
- 2 豊田講堂
- 3 野依記念学術交流館
- 4 野依記念物質科学研究館
- 5 赤崎記念研究館
- 6 IB電子情報館
- 7 グリーンベルト
- 8 附属図書館
- 9 博物館野外観察園

自然誌

- 10 鬱金(ウコン)桜
 - 11 コバノミツバツツジ
 - 12 八事層のチャート礫
 - 13 鏡ヶ池
- 研究成果の公開
- 14 博物館
 - 15 ケミストリーギャラリー
 - 16 ウィーヘルト地震計
 - 17 赤崎記念研究館展示室

アート・デザイン

- 18 ロン・アラッド
《ビッグ・イージー》
- 19 ロイ・リキテンシュタイン
《Peace through Chemistry》
- 20 教養教育院プロジェクトギャラリー
「clas」
- 21 北川民次
《市場》

その他の見所

- 22 野依教授ノーベル賞
受賞記念碑・記念樹
- 23 加藤唐九郎 陶壁《和多津海》
- 24 郁達夫の碑
- 25 東山丘陵の二次林
- 26 ヒトツバタゴ(なんじゃもんじゃの木)
- 27 コナラの大木
- 28 ラクウショウ
《市場》
- 29 渡邊龍聖彫像

レストランなど

- | | |
|--|--------------------------------------|
| A 職員クラブ
11:30~14:00 16:00~19:00 土日定休 | E 北部食堂
10:30~20:00 土曜 11:00~14:00 |
| B BINAP-CaFe
10:30~16:30 土日定休 | F IB Cafe
10:00~20:00 土日定休 |
| C レストラン花の木
11:00~14:00 土日定休 | G ファミリーマート名古屋大学店
7:00~23:00 |
| D Cafe FRONTE
8:00~20:00 土曜 11:00~15:00 | H フレンドリイ南部
11:00~14:00 土日定休 |

*長期休暇(夏季・年末年始など)の営業時間については、別途ご確認下さい。

建築・ランドスケープ

東山キャンパスは、名古屋市東部丘陵に広がる文教地区・風致地区にあり、官民挙げた協力で区画整理事業保留地の無償譲渡により実現しました。グリーンベルトを基点とした計画で、東端の丘の豊田講堂から西に緑地がなだらかに下りキャンパスを見渡すように視界が開けています。建築もさることながら、自然の起伏を生かしたランドスケープがキャンパス風景を特徴づけています。グリーンベルト両脇には各学部が位置し、緑地に面する建物は緑景観を尊重して低く計画されています。

1 古川記念館

1964年に古川爲三郎夫妻から寄贈。かつては図書館として愛された建物で、現在は名古屋大学博物館となっています。設計者は帝国劇場を設計した谷口吉郎。貴重な近代建築遺産で折板状の屋根から差し込む光が印象的です。



2 豊田講堂

1960年トヨタ自動車工業株式会社から寄贈。2007年トヨタ自動車(株)およびグループ企業の寄附で改修再生。設計は横文彦でDOCOMOMO Japan近代建築100選に認定されました。シェル構造と細い柱により端正な外観となっています。



3 野依記念学術交流館

2003年野依良治教授のノーベル賞受賞を記念して建設。自然林を背景とした落ち着いた雰囲気の中で公開セミナーや会議が行われ、研究情報の受発信の場となっています。設計は飯田善彦で、空中に浮かぶホールが特徴的です。



4 野依記念物質科学研究館

2003年野依良治教授のノーベル賞受賞を記念して建設。国内外の研究者との共同用研究室・実験室からなり、2階にはケミストリーギャラリーがあります。外観はガラスやステンレスメッシュなど様々な素材で構成されています。



5 赤崎記念研究館

2006年、青色LEDを開発した赤崎勇特別教授の研究業績を顕彰するため建設されました。研究実験室や産学官連携を促進するための部門よりなり、1Fには赤崎教授の業績を紹介するギャラリーが設けられています。



6 IB電子情報館

2003年世界水準の教育研究を目指し、流動的なプロジェクト型の教育研究を支援することを目的とし建設されました。地域との交流を意識してデザインされたオープンスペースやラウンジが学会会場などとして頻繁に使用されています。



7 グリーンベルト

グリーンベルト(中央緑地帯)は1940年のキャンパス計画の中で、キャンパスを東西に貫く大空間として計画されました。以来、並木空間や広場が徐々に創出され、名古屋大学の象徴的な景観へと形成されてきました。



8 附属図書館

グリーンベルト上に位置する本大学の中央図書館。4階展示常設展では附属図書館が所蔵する主なコレクション・文庫の紹介と展示があり、年に数回特別展とそれに伴う特別展資料講座も行われます。



9 博物館野外観察園

名古屋大学の研究や教育用植物を育てるために約40年前に造られました。4230㎡の緑地内には、生きた化石と呼ばれるラクウショウや東海地方の代表的植物ヒトツバタゴなど約800種の植物が見られます。平日10-16時オープン。



自然誌

東山キャンパスには、コナラ・アカマツ主体の二次林やコバノミツバツツジなどこの地域を特徴づける樹木とともに、クスノキ・ヒノキ・メタセコイアなどが植樹されています。ヒメボタルやハッチョウトンボなどの希少昆虫のほか、年間40種類以上の野鳥も見られます。キャンパスの土台は礫層と粘土層で、粘土から須恵器を焼いた窯跡も存在します。山の上のテニスコートから環境医学研究所に至る南北の道は、江戸時代に東山丘陵の主要な道であった八事-唐山古道の一部です。

10 鬱金(ウコン)桜

博物館(古川記念館)西角に植えられた、うす黄緑色という珍しい色の花をつける桜です。花の色から「鬱金(うこん)」と呼ばれ、4月下旬～5月上旬に八重の花を咲かせます。花びらは花期の終わりがち淡い桃色に変わります。



11 コバノミツバツツジ

春、葉より先に開いた紅紫色の花があざやかなツツジです。東山丘陵によく見られ、「尾張名所圖會」の「東山の春興」の図に「花衣裾もつつじの紅裏にみせばやぶりもげにやよひ山」と歌われているのは、この花だと思われています。



12 八事層のチャート礫

キャンパス東部の小高い丘は、大昔の木曾川が運んできた八事層と呼ばれる礫層で、直径1～7cmほどの白い(風化前は緑や赤褐色)礫がたくさん見られます。礫はチャートという硬い石で、約2億年前の放射虫化石を含んでいます。



13 鏡ヶ池に飛来する水鳥

東山キャンパスでは、年間40種類以上の野鳥を観ることができます。秋・冬になると、東部丘陵地にはジョウビタキなどの山野の鳥が、鏡ヶ池にはキンクロハジロなどの水鳥が飛来します。この時期には探鳥会も行われています。

